



会 議： 国際海事機関（IMO）第4回航行安全・無線通信・捜索救助小委員会（NCSR 4）

開催場所： 国際海事機関（IMO）、英国、ロンドン

会議期間： 2017年3月6日～3月10日

参加国： 国および地域：86、政府間機構：9、国際機関：26

海技研からの出席者： 丹羽 康之： 運航・物流系運航解析技術研究グループ上席研究員
（国際連携センター併任）

概要

国際海事機関（IMO）航行安全・無線通信・捜索救助（NCSR）小委員会は、海上人命安全条約（SOLAS 条約）附属書第IV章「無線通信」、第V章「航行の安全」、海上における衝突の予防のための国際規則に関する条約（COLREG 条約）等について審議している。

第4回 NCSR 小委員会（NCSR 4）は、

- 当所の研究成果に基づき日本が提案した伊豆大島西方沖の推薦航路の設定に合意した。
- 海上における遭難及び安全に関する世界的な制度（GMDSS; Global Maritime Distress and Safety System）の見直しについては、昨年7月に開催された IMO/ITU（国際電気通信連合）合同専門家会合による審議結果及びコレスポンス・グループ（CG）の報告等に基づき、近代化計画を最終化した。

主な貢献

丹羽は、航行安全関係の作業部会（Navigation Working Group）に参加し、統合航海システム（INS; Integrated Navigation System）の性能基準への追加モジュール（議題7）、通信設備を通じて受信した航海情報の調和的な表示に関するガイドライン（議題8）等の審議に貢献した。



海技研からの出席者（丹羽）



主な審議結果

主な審議結果は以下の通りである。なお、小委員会の合意事項については、海上安全委員会に承認や採択を求める予定である。

1 航路指定方式（議題 3）

伊豆大島西方沖ではこれまでに衝突事故が発生しており、この海域の安全対策のために、SOLAS 条約の航路指定制度に基づき、推薦航路の設定を日本が提案し、小委員会はこれを合意した。この推薦航路は、当所の研究成果に基づくもので、船舶の遭遇頻度が低くなるように設定したものである。

2 INS の性能基準への追加モジュール（議題 7）

INS の性能基準（MSC.252(83)）は、モジュール A から D の 4 部構成となっている。前回会合までにモジュール E（船橋設計）及び F（情報表示）の追加が提案され、中国をコーディネータとする CG を設置して検討してきた。今次会合ではこの CG 報告に基づき審議を行った。

モジュール E については、既存の IMO ガイドライン等との重複もあり、追加しないことにした。モジュール F については、次の議題 8 の審議結果を反映させた上で追加すべきとして、今次会合におけるモジュール追加は見送った。

3 通信設備を通じて受信した航海情報の調和的な表示に関するガイドライン（議題 8）

前回会合に引き続き、ノルウェーがガイドライン案を提案した。ガイドライン案に記載された表示する項目について、次回以降の小委員会で検討を予定している Maritime Service Portfolios 等が含まれており、今次会合でのガイドラインの最終化は見送った。また、ノルウェーをコーディネータとする CG を設置した。

4 GMDSS 関係（議題 12 他）

今次会合では、昨年 7 月に開催された IMO/ITU 合同専門家会合及び CG の報告に基づき GMDSS 近代化計画を最終化した。日本からは、GMDSS 機器の操作はユーザーフレンドリーであるべき旨を提案し、近代化計画に反映させた。今後は、近代化計画に基づき、SOLAS 条約の改正、関連性能基準の作成や見直しを行う予定である。

5 次回会合

次回の航行安全・無線通信・捜索救助小委員会（NCSR 5）は、2018 年 2 月 19 日から 23 日まで、ロンドンの IMO 本部で開催される予定である。